

MUSASHINO Vol.105 for TOMORROW

巻頭

音楽の力

青柳いづみこ

卒業生インタビュー

バロック・オーボエに

魅せられて

三宮正満

表紙…井上友美子(ハープ)

April 2013
vol.105

平成 25 年度を迎えて

武蔵野音楽大学学長 同附属高等学校校長 福井直敬



四季の巡りは違うことなく、厳しく長かった冬も去り、キャンパスには再び春の訪れが感じられます。

昨年来、本学の教育研究環境を刷新する「江古田新キャンパスプロジェクト」に取掛っておりますために、学生諸君の履修キャンパスを年次ごとに一部変更せねばならないところ、全国から昨年と変わらぬ新入生諸君を迎え、平成25年度を順調に開始することができましたことを大変嬉しく思います。

しかし、我が国社会のこの一年間を見ますと、東日本大震災の復旧・復興も道半ばで、また、政治、経済、社会など多方面で多くの出来事や変化が起こる中、昨年12月末に突然政権が変わりましたが、新政権には、将来へ向って希望が持てる力強く前向きな舵取りを期待したいと思います。

このような状況のもとで、現在大学にとって最大の課題は、教育の質保証です。特に昨夏の中央教育審議

会の答申にも指摘があるように、日本の学生諸君の学修時間が諸外国と比べ著しく少ないことは、国の将来を考えれば是非とも改善しなければなりません。そのためには、先ず教員の教育力と職員の職能、大学の学生支援を含む教育環境の整備が不可欠で、大学当局、教職員、学生の三者が、それぞれの責任を果たすことが必須です。

本学では従前からFD・SD活動を積極的に行い、自己点検の結果を学生の教育にフィードバックするよう努力を続けておりますが、これは継続的に続けるべき作業で、今年度も附属高校とも連携しつつ、一層の工夫を尽くす所存です。また、教育環境の整備については、前述のプロジェクトに従い、閑静な住宅地の中にマッチする音大の建築について、理想的な環境の整備を念頭に、いよいよ新

学年から実施設計の段階へ入る予定です。

昨年度は、モーツァルト「魔笛」の公演、オーケストラのドイツ演奏旅行をはじめ、ソロ、合唱、室内楽と、例年に増して多彩なコンサートを開催し、学生・生徒諸君の実体験の場を拓げ、成果をあげることができました。本年度も演奏の場を更に充実してまいりたいと計画しておりますので、皆様には一層のご鞭撻をお願い申し上げます。



昨年9月に行われた武蔵野音楽大学管弦楽団ドイツ演奏旅行

音楽の力

青柳いづみこ
(ピアニスト・文筆家)

フランスの作曲家、クロード・ドビュッシーの演奏・研究で知られる青柳いづみこさん。ドビュッシーの生誕150年でもあった昨年、CDアルバム『ドビュッシーの神秘』をリリースするなど、音楽家としての顔に加え、日本エッセイスト・クラブ賞をはじめとする多くの文学賞にかがやく文筆家としての顔もお持ちです。

そんな青柳さんに書き綴っていたいただいた今回のテーマは「音楽の力」。癒し、喜び、感動などをもたらす音楽、その本質にせまるお話は、音楽を学ぶ我々に大いなる示唆を与えてくれます。



青柳いづみこ *Izumiko Aoyagi*

安川加壽子、ピエール・バルビゼの両氏に師事。東京藝術大学大学院博士課程修了。1990年、文化庁芸術祭受賞。演奏と執筆を両立させる希有な存在として注目を集め、9枚のCDが『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれるほか、『翼のはえた指 評伝安川加壽子』で吉田秀和賞、『青柳瑞穂の生涯』で日本エッセイスト・クラブ賞、『六本指のゴルトベルク』で講談社エッセイ賞、CD『ロマンティック・ドビュッシー』でミュージック・ペンクラブ賞受賞。'12年にはドビュッシー生誕150年記念として「文学キャバレ『黒猫』の仲間たちとドビュッシー」を開催、大きな話題を呼んだ。近刊は『ドビュッシーとの散歩』（中央公論新社）とCD『ドビュッシーの神秘』（カメラータ）。日本ショパン協会理事、大阪音楽大学教授、神戸女学院大学講師。HP：<http://online-i.net>

特別養護 老人ホームにて

これから社会に巣立つ学生さんに私は、どんな形でも聴き手のために弾いてほしい、どんな活動の形でも音楽を通じて社会の役に立つことを大切に考えてほしいと言っている。

そんなふうを考えるようになったきっかけは、亡き母が入所していた特別養護老人ホームで開いたボランティアのコンサートである。

母は80歳も半ばにさしかかったころから認知症の症状をあらわしはじめ、7年間は自宅介護でがんばったが、私も主人も仕事があり、娘は学生で日常介護ができない。声をかけてくださる施設があって入所に踏み

切った。

手厚い介護で表情もやわらぎ、改めてプロの仕事の尊さを思った。

入所者が集って思い思いの娯楽を楽しむスペースにはピアノもあり、それを見た私は、是非ピアノを弾かせてくださいとお願いした。古い縦型のピアノで調律もしていないのに…と施設の方はしきりに恐縮されていたが、そんなことはあまり気にならなかった。

コンサート当日は、ピアノのまわりをパイプ椅子や車椅子で半円状に囲んでいただき、お一人お一人に弾いているところが見えやすいように工夫した。入所者の方々は、いつもよりちょっとおしゃれをして集まってくれた。

母は最前列に座り、白い髪飾りを



▲ 本学入間キャンパス

つけてとてもかわいらしかった。

お年寄りが親しみやすい曲目をと考えて、ショパン『小犬のワルツ』やシューマン『トロイメライ』などを弾いたあと、『荒城の月』や『浜辺の歌』『赤とんぼ』などをピアノ用に編曲したものを演奏させていただいたところ、びっくり。客席から歌声が沸き起こったのである。だって、日常生活では自分の名前も忘れてしまったり、お話ができなかったり、声も出なかったりする方々なのである。でも、歌になると音程は確かだし、歌詞だってちゃんとおぼえている。

あらためて、音楽の力を思い知らされた。

モーツァルトの癒し力

こんな話もある。月に1回、都内で開いているフランス音楽のセミナーに、あるピアニストの方が受講にみえた。その方は、クモ膜下出血で一時は右半身不随を宣告され、リハビリ

の過程でずっと音楽を聴いているうちにみるみる回復されたとのこと。

チューブで身体中を固定されて過ごしたICUの日々、iPodで聴く音楽だけが救いだったという。といっても、効果が上がる音楽と上がらない音楽があったらしい。

演奏活動をしていたころはリストを好んで弾いていたのに、なぜか聴いても安らぎを得られない。ところが、モーツァルトはすっとなじみ、自分の身体が音楽で満たされるような不思議な感覚を味わった。

それまで、音楽は自分の外にあるものだったが、そのとき初めて、自己の内部に音楽を感じたという。

リハビリに励んだ結果、何とか半身不随はまぬがれ、退院して演奏を再開した。なかなか元のように指は動かないが、病気をきっかけに音楽への対し方が大きく変わった。今までは、ミスをしてはならないとか、大きな音を出そうとか、いろいろなことにとらわれていたが、今は、自分の気持ちをそのまま音に託すことが一番大事だと思うようになった。

こちらも、音楽の力を思い知らさ

れるエピソードである。

音楽を通して何を伝えるか

音大のレッスン、コンクールやオーディションで若い方のピアノを聴くたびに、音楽がその人の外にあると感じることが多い。

きちんと弾いているが、その人が楽譜から何を読み取り、読み取ったことをどんな方法で聴き手に伝えたいと思っているかが見えてこないのである。音楽とは、楽器からひき出す音を通じて作曲家の気持ちや考え、弾き手の気持ちや考えを相手に伝えることだという、一番のポイントがおろそかにされているように思えてならない。ピアノはあまりにも音が多すぎて、すべての音を間違えずに弾くことが最重要課題になってしまっている。

まず、一音でもいいから、自分でもうっとりするような美しい音を出して、その響きに耳を傾けてほしい、と願う。その音はどんな音なのか。喜んでいる音か、悲しんでいる音か、怒っている音か、やさしい音か。自分の音をよく聴くことによって、次にどうつないで行くか、フレージングの問題に気づくだろう。

このフレーズは、どこに向かっていくのか。このフレーズ全体で、作曲家はいったい何を表現したいのか。このフレーズは、全体から見てどんな位置にあるのか。

自分なりに考えた上で、それではこの音はどんなふうに鳴らしたら目的にあった音が出せるのか、このフレーズはどんな種類のレガートで弾けば、ふさわしい表現ができるのかという、テクニク的な問題が浮上する。



▲ 学生を指導中の青柳さん



▲ 武蔵ホールでのトークコンサート

楽譜の深い読みと自分自身の感性に根ざした音やレガートなら、目的がはっきりしているから探すこともできる。偉いピアニストの演奏を参考にすることもできるし、師事する先生や尊敬する先輩に尋ねることもできる。そして試行錯誤をくりかえすうちに、少しずつ、自分がめざす演奏を実現させるための本物の技術が身についていくだろう。

これが練習する ということ

もうずいぶん昔のことになるが、非常勤で勤務していた藝大附属高校で、ロシア人ピアノ教師の公開講座が開かれた。とても成績のよい生徒がむずかしい曲を弾いたが、そのピアノ教師は、その楽曲をレッスンするかわりにこう言った。

あなたは音も奏法も解釈も、すべてが硬直しています。あなたの中にあるもの、あなたの本当の気持ちを伝える状況にはありません。あなた

はまず、メンデルスゾーンの『無言歌』のような作品を心をこめて美しく弾くことから始めないとはいけません。このことについて、私はあなたの先生と話しあいたいと思います。

こう言ってその教師は会場を見渡したが、その生徒の先生は聴きに来ていなかった。

私自身にも、苦い思い出がある。

留学中に、スイスのあるシャレーで開かれていたジェルギー・セボックの夏期講習会を受講したときのこと。リストの『マゼッパ』を用意していたが、セボックはレッスンしてくれなかった。かわりに、もう少し音の少ない曲は持ってきていないかときかれたので、シューマン『子供の情景』を弾いたところ、第1曲だけで1時間かかった。

旋律にはカーヴがある、とセボックに言われた。そのカーヴをどうやって出すか、ピアノの音はひとつひとつとぎれてしまうのに、あたかもなめらかにつづいて美しいカーヴを描いているような錯覚を起こさせるためには何をしなければならないか。

旋律はバスに支えられている。バ

スはどんな進行をしているか、旋律に流れを与えるバスはどんな弾き方をしなければならないか。

旋律とバスの間にはハーモニーがある。この曲の場合は分散和音の形をとっているが、音は離れていても、全体としてハーモニーが聴こえてこなければならない。そのためにはどんな弾き方をしなければならないか。旋律を豊かにし、でも旋律にかぶらないためにはどのようなタッチを選びとらなければならないか。

楽曲には一定のリズムがあり、拍と拍の間は絶えずゆれている。律動と旋律の折り合いはどのようにしてつけなければならないか。ほんの少しの間合いの出し入れによって、旋律のカーヴがよりふくらんで聴こえるような工夫をしてほしい。

こうして各要素に分けながら、パート練習をさせられた。何度もダメ出しをされたあげくすべての要素を合わせたとき、何とこの単純な曲が立体的に浮かび上がったことか。

レッスンが終わったとき、セボックは「これが練習するということなんですよ」と言い、私にはその意味が——今ごろになって——よくわかる。

感動に至る道は さまざま

専門的な教育を受け、むずかしい楽曲を弾きこなす学生に向かって、演奏は、たとえ一本指でも聴く人を感動させればよいのだ、と説いてもとまどいをおぼえるかもしれない。

もちろん、たぐい稀な素質を持ち、豊かな音楽性と見事な技巧で世界各地の聴衆に感動を与える超一流のピアニストであることはすばらしいことだ。しかし、そうでなければ音楽する資格がないとは思わないでほしい。

感動への道はひとつではないのである。

演奏の形態にもさまざまなものがある。ひとたび社会に出れば、ときには『小犬のワルツ』や『トロイメライ』のような、一般的には「容易」とされている曲目を求められることもあるし、クラシックではなく、ポピュラー音楽やアニメの音楽を演奏しなければならないこともあるだろう。

それこそ得難い機会だと思うのだ。もしあなたの弾く楽曲やあなたのピアノが聴き手を喜ばせていることがわかったら、聴き手の身体が動き、表情が明るく変化する瞬間を体験すれば、それが糧となってあなた自身を育んで行くだろう。

そうした現場での貴重な体験を積

み重ねることによって、専門的なむずかしい楽曲を弾くときも、人の心に届く音を出すこと、人を感動させるフレーズをつくることの大切さがわかり、あなたの練習や活動に目的が生まれるだろう。

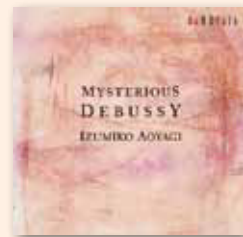
音楽は言葉のように概念を固定する力を持たないが、そのぶん、言葉よりずっと直接的に人の心に働きかけ、さまざまな感情をひき起こす。音楽は、もしそれが本当に弾き手の内部から押し出されたものであるなら、作曲家の魂と弾き手の魂が高度に共鳴したものであるなら、アラビアンナイトの物語のように、人の心の扉に向かって「開け、ゴマ！」と呼びかけることができる。

それが音楽の力だと信じている。



近刊のご著書

『ドビュッシーとの散歩』



昨年発売されたCD

『ドビュッシーの神秘』

音楽の万華鏡 22

音楽用語としての「曲」

「曲（きょく）」といえば、西洋音楽、日本音楽を問わず、基本的には「楽曲」、すなわち「音楽作品」を意味する。

「曲」という漢字は、本来は「木や竹で作った、まげもの細工の形にかたどり、まがるの意味を表す」象形文字だが（新漢語林）、それが転じて様々な意味をもつようになった。道理を曲げれば「よこしま」「不正」になる。また本来の形を曲げれば「普

通とは異なる」という意味になるし、まっすぐのものが曲がれば「変化」が生まれ、その結果「面白い」ということになり、また変化が多くなれば「細かい」ということにもなる。

「曲」が「音楽作品」という意味に使われるようになったのは、旋律がさまざまに「屈曲」するからであるという説や、音楽作品が「変化に富んで面白い」からであるという説がある（日本音楽大事典）。

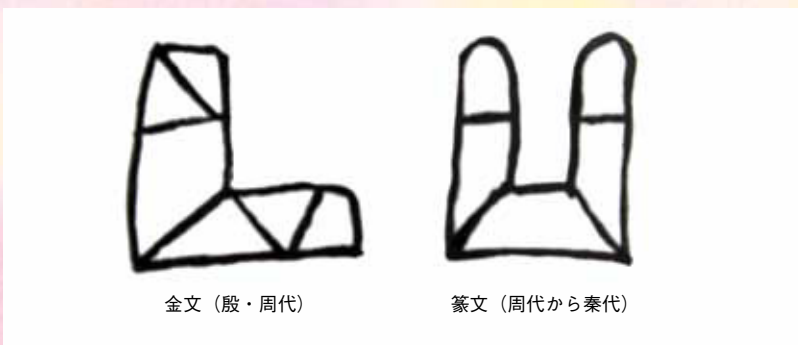
雅楽では、楽曲の規模によって、作品を大曲、中曲、小曲と分類し、仏教音楽では、律曲、呂曲といえ、音階の違いによる作品分類のことである。また箏曲には、「扇の曲」「江の島の曲」「千鳥の曲」といっ

たように、作品名に「曲」を用いたものもある。これらは「音楽作品」という意味での基本的用法である。

能では、基本の技法に個性や即興によって加えられた妙味のことを「曲」という。また三味線の「曲弾き」や太鼓の「曲打ち」といえば、「曲芸」的な演奏法をいう。これらの「曲」は基本からの逸脱、変化、面白さといった意味で用いられている。特殊なものとして、「曲」を「こく」と読み、「曲の物」というと、雅楽の器楽作品を表す語となる。

また種目名に「曲」を付けることがある。能の「謡」に曲をつけると「謡曲」となる。『平家物語』を琵琶の伴奏で語る「平家」という音楽は、江戸時代には「平曲」と呼ばれることもあった。浄瑠璃を「浄曲」と呼んだ例もあり、また浪花節は「浪曲」ともいう。「曲」をつけることで、本来の呼称より改まった印象になる。

西洋音楽の種目名には、この「曲」を用いたものが多い。交響曲、協奏曲、歌曲などである。私たち日本人の祖先が培ってきた語感が、このようなところにも表れているといえよう。



金文（殷・周代）

篆文（周代から秦代）

▲ 象形文字から生まれた「曲」

薦田治子（本学音楽学教授）

卒業生インタビュー

バロック・オーボエに魅せられて

● 三宮正満 (オーボエ) ●

少年時代にバロック・オーボエと出会い、その魅力の虜になったという三宮正満さん。音楽教師を目指して武蔵野音楽大学に入学し、在学中から演奏活動をスタート。現在ではその分野の日本を代表するプレイヤーとして、さまざまな舞台で活躍されています。バロック・オーボエを



©studio-mickey.com

三宮正満 Masamitsu San'nomiya

1971年埼玉県生まれ。都立北園高等学校卒業。中学時代、バロック・オーボエのサウンドに魅了され本間正史氏に師事。その後、モダン・オーボエを本間正史、吉成行蔵、嶋崎耕三の各氏に師事。'95年、武蔵野音楽大学音楽教育学科卒業。在学中より演奏活動を始める。アンサンブル「ラ・フォンテーヌ」のメンバーとして'97年、古楽コンクール(山梨)最高位、'00年、ブルージュ国際古楽コンクール第2位受賞。'96年より「バッハ・コレギウム・ジャパン」-J.S. バッハ=カンタータ全曲レコーディングプロジェクトに参加。'01年、サイトウキネンフェスティバル・バッハプログラムにソリストとして招かれる。'02年、東京藝術大学古楽科講師就任。'03年ソロアルバム「ヴィルトゥオーソ・オーボエ」をリリース。'04年「アンサンブル・ヴィンセント」結成。'07年、ジョルディ・サヴァール指揮の「Le Concert des Nations」に参加。'08年より田村次男氏と共にオーボエ製作を開始。現在「バッハ・コレギウム・ジャパン」「クラシカル・プレイヤーズ東京」及び「オーケストラ・シンボシオン」首席オーボエ奏者、「ラ・フォンテーヌ」他メンバー。東京藝術大学古楽科講師。

こよなく愛し、後進の指導や楽器製作にも力を注いでおられる三宮さんに、古楽器の魅力、ご自身の活動、古楽を学ぶ意義などを伺いました。

(1月28日インタビュー、文責編集部)

カセットで聴いた バロック・オーボエ

——三宮さんが最初に音楽にふれたのは？

三宮 私の家は、父が高校の数学教師、母がピアノ教師でした。その父がバロック音楽の愛好家で、家でレコーダーを吹いていましたし、音楽仲間がよく集まっていました。そんな関係で、小さな頃から日常的に音楽が耳に入ってくる環境でしたね。自分ではよく覚えていませんが、3歳の頃からバッハの「オーボエとヴァイオリンのための協奏曲」のレコードを、毎晩のように掛けてくれと親にせがんだようです。すり切れるまで聴いて、また同じレコードを父に買ってきてもらったといいます。

——そうした環境のなかで、バロック・オーボエと出会ったわけですね。

三宮 中学1年のとき、父の友人が聴かせてくれたカセットテープが初めてのバロック・オーボエ体験でした。最初は古い時代のオーボエだとは知らず、何気なく耳を傾けました。音が流れてきた瞬間、その野太い音色、チャーミングな音楽に、圧倒的な衝撃を受けたんです。すぐに「これをやりたい。これを吹きたい」と。ただ普通に売っている楽器ではありませんので、父に頼んで注文しても

らい、私の手にとどくまでに1年かかりました。今でも覚えています。楽器を受け取ったのは中学2年の七夕の日。そして、初めてのレッスンも始まりました。師事したのは、日本におけるバロック・オーボエのパイオニアである本間正史先生。モダン・オーボエさえ習ったことのない子供に、先生はよく教えてくださったと今になって思いますね。

——当時から、将来はバロック・オーボエ奏者と考えていたのでしょうか。

三宮 いえ、あくまで趣味でした。部活動も、中学、高校とバレーボールでした。将来についても、父と同じ教師になれたらと漠然と思っていました。ですから武蔵野も音楽教育学科を選んだわけです。

一流のプレイヤーから 学ぶもの

——大学時代も古楽への想いは尽きなかったとか。

三宮 バロック・オーボエへの想いはずっと持ちつづけていました。そんな私にとって何よりありがたかつ





▲ アンサンブル・ヴィンサントのステージ(右から2人目が三宮さん)

たのは、武蔵野の図書館の充実ぶり。膨大な量のレコードやCDを聴くことができましたし、オーボエに関する楽譜はほとんど写させてもらい、今も大切に持っています。他大学の古楽器専攻の学生と友達になり、初見大会や色々なリサーチ、合奏などもしましたね。

—— 武蔵野時代を振り返って、一番思い出すことは何でしょう？

三宮 私の大学時代の恩師は、オーボエの蠣崎耕三先生です。当時、先生は指導者になりたてで、まだ若く、先生自身が国際コンクールをお受けになるということがありました。その

リハーサル風景、ファイナルに至るまでの難曲が揃った課題曲を立て続けに演奏する姿を、幸運なことに間近で拝見することができたんです。すさまじいスタミナ、音楽的なダイナミックさ、音量、音色、そのすべての幅の広さを小さなりハーサル室に同席して全身で感じ、ただただ驚きました。もちろん普段のレッスンでも色々なことを教えていただきましたが、先生のプレーヤーとしての面にふれられたことは、非常に幸運でした。

—— 素晴らしい演奏者の生の演奏から学ぶものは大きいということですね。

三宮 そうですね。大学4年になって本間先生の紹介でバッハ・コレギウム・ジャパンに参加した当初、こんなことがありました。私はセカンド・オーボエでしたが、世界で活躍しているオーボエ奏者が来て吹くことになりました。その頃、私は思うように吹けなくて、絶望感にさいなまれていた時期。「どうしたら、こんな風に吹けるんだろう」と、リハーサル中、レコーディング期間中、その方をずっと横目で追っていました。一流のプレーヤーであっても、本番では色々な困難に直面することがあります。例えば温度や湿度が楽器に影響したり。そうした場合にどのように対処

したらいいのか、それは、現場でしか分かりません。“習うより慣れろ”ではありませんが、見て、刺激を受けて得るものは大きいと思います。バッハ・コレギウム・ジャパンへの参加を機会に、演奏者としての道を歩むことになりました。

音楽解釈における古楽の意義

—— 基本的なことになりますが、バロック・オーボエの魅力とは何でしょう？

三宮 モダン・オーボエとの比較で言いますと、まずバロックの方は内径が太いです。太いがゆえに息が入りやすく、フレキシブルなんですね。つまり表現の幅が広い。そこが魅力である反面、デメリットとして不安定でもあるわけですが…。ただ不安定さはテクニックで克服できるものですし、バロック・オーボエのもとも持っている響きの柔らかさやサウンド・クオリティの面から考えると、非常に大きな可能性を持っている楽器だと思います。

—— モダンとバロック、それぞれのオーボエを演奏する上での違いは？

三宮 バロックか現代のオーボエか、と2つしかないと誤解されている方が多くおられますが、車やパソコンと同じように、楽器も時代と共に変化していくもの。当然、その時代ごとに対応する技術も違います。でもオーボエはオーボエ。個々の難しさはありますが、そもそもオーボエは難しいものです。

また楽器は所詮道具ですから、バッハやモーツァルトを演奏するのに、どちらを使っても構わないと思います。私自身、同じ曲を吹くときに、バロックでもモダンでも何も変わりません。もちろん出てくる音やピッチは違いますが、音楽的なニュアンスや意味合いは何も変える理由があり



▲ バロック時代からさまざまな変遷をとげてきたオーボエのラインナップ

ません。バッハを演奏するのであれば、どう解釈するかだけが問題でしょう。ただ、バロック時代のフランスの音楽、例えばクーランの曲などは、古い楽器でないと出しにくい音色やニュアンスがあるように思われます。

—— 現在、古楽を指導しているお立場から、古楽を学ぶ意義をお聞かせください。

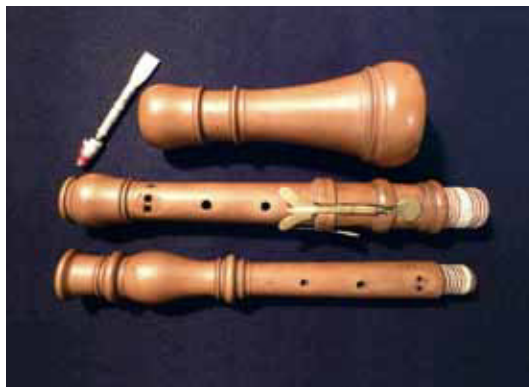
三宮 古楽というと学究的とかカビ臭いというイメージがありますが、自分が専門にやっている楽器の歴史を知る、作品が生まれた背景や当時の暮らしなどを知ることは、単純に楽しいんじゃないでしょうか。繰り返しますが、大切なのは音楽そのもの、その音楽の解釈の仕方です。古楽というのは、つまりその解釈をするにあたっての一つの視点であり、方法なんだと思います。

バロック・オーボエの魅力を伝えたい

—— 現在の活動、これからの予定についてお聞かせください。

三宮 バッハ・コレギウム・ジャパンの活動が中心ですね。1996年に始まった「教会カンタータ全曲レコーディング」が近々完成します。トータルで200曲、CD55枚になります。9割方にオーボエが入っていて、その大半にオーボエのアリアがあり、オーボエ・ダモーレ、オーボエ・ダクッチャを含め3種類の長さの違う楽器を演奏しています。オーボエ奏者にとってバッハは重要なレパートリーであり、中でもカンタータはなかなか演奏する機会がないのですが、このシリーズではほとんど私が吹かせてもらいました。非常に光栄であり、オーボエ奏者冥利に尽きるといった感じですね。今後もこのグループで、レコーディングやコンサート、海外公演などを行っていきます。

また私はバロックの専門家みたい



▲▶ リスボンの博物館にあるアイヒェントプフ作のオーボエと、それを試奏する三宮さん



に見られていますが、自分の中で一番興味があるのは、実はロマン派のオーボエなんです。今年中には、古いピアノとロマン派のオリジナルのオーボエを使ってCDを作る予定。パリのコンセルヴァトワールでオーボエを教えていた先生が、生徒や自分のコンサートのために作ったとてもチャーミングな曲があって、それを中心に、あと有名な曲も入れて、ロマン派のオリジナルの響きを音に残そうと思っています。

—— 古楽器の製作にも力を入れていらっしゃるとのことですが。

三宮 オーボエ奏者がバロック・オーボエに興味を持って、現状ではなかなか入手することができません。もし私が何らかの形で提供できたら、多くの優秀なプレイヤーの方たちが目を向けてくれ、手にとって吹いてくれるのではないかと。古いものを知ることで考え方も変わるだろうし、私が指導している学生を見ても、モダン・オーボエの方に良い影響をもたらしているような気がします。専門のプレイヤーにならなくても、知って、持ってみて、吹いてみる、それだけで意味があるのではないのでしょうか。もっと広めたい、そういう思いで弟子と一緒に手探りで製作を続けています。去年、楽器の設計図を描く参考にするためにリスボンまで行き、博物館に3日こもり、バッハの時代のオーボエの写真を撮ったり寸法を

計ったりしてきました。

—— 最後に武蔵野の後輩へのメッセージをお願いします。

三宮 プレーヤーになるにしても、指導者になるにしても、どんな職業に就くにしても、その分野の技術が優れていれば良いというわけではありません。仕事をする上で、コミュニケーションは不可欠。今後はコミュニケーション能力、セルフプロデュース能力を高めることが大切ではないでしょうか。アンテナを張り、自ら積極的に働きかける姿勢が大事だと思います。コンクールで1位を取ったから、と待っているだけでは仕事は来ません。それをどう知ってもらうか、最近は様々なツールがありますので、それらも活用しつつ積極的に自分を表現することが必要だと思います。



▲自作のオーボエを手に

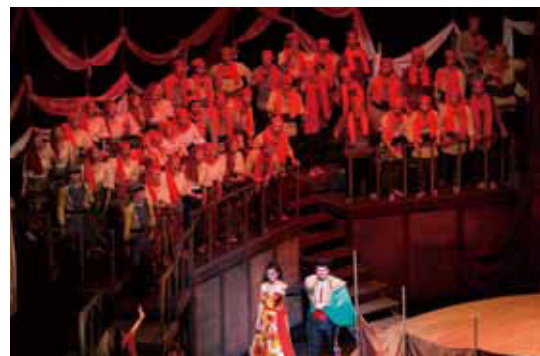
本学合唱団、東京芸術劇場シアターオペラ「カルメン」に出演

去る2月17日、武蔵野音楽大学合唱団（指揮：横山修司）は、5都市共同制作公演 東京芸術劇場シアターオペラ vol.6、ビゼー作曲歌劇「カルメン」Alkor 版全4幕／原語&一部日

本語上演字幕付（会場：東京芸術劇場コンサートホール）に出演しました。

本学合唱団はこのシリーズに何度か出演していますが、今回は指揮：井上道義氏、管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢、演出：茂山あきら氏、振付：中村恩恵氏、また第一線で活躍されている内外のソリストとの共演となりました。

演出は、ビゼーが書いた原典版を復元した「アルコア版」を用いて、スペインの植民地時代のフィリピンを舞台設定にした珍しいもので、全幕を通して活躍する



撮影：Hikaru. ☆

合唱は、闘牛場に見立てた円形の舞台を取り囲む群集の合唱隊として重要な役割を担い、メルセデス役で出演した本学講師で卒業生の鳥木弥生さんと共に好評を博しました。

満席となった会場からは拍手が鳴り止まず、素晴らしい舞台となりました。



▲東京芸術劇場コンサートホール

撮影：Hikaru. ☆

「レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート 2013」に本学が3年連続採択

サントリーホールが、エデュケーション・プログラムの一環として実施している「レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート2013」に、本学音楽学学科の学生による企画「知

られざるヴェルディ&ワーグナー-オペラの巨匠たちの器楽曲と歌曲-」が採択されました。

これは次代を担う音楽家や音楽業界を旨とする学生が自ら企画し、音楽

大学の協力のもとサントリーホールと連携して、プログラムの作成から舞台構成、広報活動などの全ての公演制作を行うコンサートです。毎年首都圏の音楽大学から多数の企画が出



▲「レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート2012」より（写真提供：サントリーホール）

されていますが、今回本学が応募した「今年生誕200年を迎える二人のオペラ作曲家について、オペラの影に隠れがちな器楽作品や歌曲を取り上げ、両者の音楽観の違いを浮き彫りにす

る」との企画内容が、「聴衆ターゲットが明確であり、目新しい視点を持ったもの」として評価され、本学学生の企画が3年連続で採択されました。ヴェルディ：弦楽四重奏曲 ホ短調

から、ワーグナー：ヴェーゼンドンク 歌曲集からなどのプログラムで、平成25年6月3日にサントリーホールで開催されます（日時等の詳細はP.14をご覧ください）。

新国立劇場オペラ研修所に本学卒業生2名が合格

この度、新国立劇場オペラ研修所の第16期生に、本学卒業生の松中哲平さん（平成18年本学卒、平成20年同大学院修士課程修了）、飯塚茉莉子さん（平成22年本学卒、平成24年同大学院修士課程修了）が合格しました。



松中哲平さん



飯塚茉莉子さん

これから更に研鑽を積んでいきたいです」と、今後の抱負を語ってくれました。

飯塚さんは「大学入学の頃からオペラ歌手にあこがれて、大学でもオペラコースに入りました。ここでの勉強が私にとって本

当によい経験となり、夢への思いが一層強くなりました。今回オペラを学ぶ場としては最高峰である新国立劇場のオペラ研修所に入所できて、一層身の引きしめる思いがしています。これからも努力を続けていきたいです」との喜びの声を聞かせてくれました。今後の活躍が楽しみです。

この研修所では、世界に通用するプロフェッショナルなオペラ歌手の育成を目指し、国内外の一流講師陣の指導のもと、充実したレッスン、授業が行われています。合格者は毎年5名という狭き門を突破し、二人は平成25年4月から3年間、新国立劇場の附属機関という専門性の高い恵まれた環境の中で研鑽に励みます。

松中さんは、「私は卒業してから年月が経っていますが、オペラ歌手の夢に向かって、コンクールを受けたりしていました。このオペラ研修所にはどうしても入所したくて、今回2度目のチャレンジで合格することができました。あきらめずに頑張ってきたので本当に嬉しく思っています。



平成24年度 音楽大学卒業生演奏会

在京の5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が皇居内桃華楽堂で、平成25年3月18日に皇后陛下ご臨席のもと開催されました。本学からは、メゾ・ソプラノ独唱 川口真貴子さん、(ピアノ 奥村奈々さん) が出演し、マーラー：《リュッケルト歌曲集》より「美しさゆえに愛するのなら」、R. シュトラウス：歌劇《ばらの騎士》より「昨日のきみ！」を披露しました。

平成24年度クロイツァー賞受賞者

レオニード・クロイツァー教授の功績を記念し、日本のピアノ音楽発展のために制定された「クロイツァー賞」。この賞は毎年、東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院ピアノ専攻修士課程生から選出されます。平成24年度本学からは、荒井茉莉奈さんが選ばれました。プログラムは、スクリャーピン：2つの詩曲 Op.32、リスト：ピアノ・ソナタ ロ短調、プロコフィエフ：4つの小品 Op.4より「悪魔的暗示」。記念演奏会は7月5日（金）19：00津田ホールで開催されます。

本学室内合唱団 東京都交響楽団と共演

本学室内合唱団は3月29日、サントリーホールで開催される東京都交響楽団定期演奏会、オルフの世俗カンタータ「カルミナ・ブラーナ」に出演します。（指揮：小泉和裕、ソプラノ：澤畑恵美、テノール：経種廉彦、バリトン：萩原潤、合唱：栗友会合唱団、本学室内合唱団）

「武蔵野音楽大学 インターナショナル・ サマースクール・イン・トウキョウ」 開催中止のお知らせ

毎年7月下旬に開催していた「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」は、大学校舎建て替えのため、当分の間開催を中止させていただくことになりましたので、お知らせいたします。



武蔵野オン・ステージ ～24年度武蔵野音楽大学主催の 講座・演奏会を振り返って～

武蔵野音楽大学では、毎年約120回ものコンサート
を内外のホールで開催しています。平成24年度はオー
ケストラ、ウインドアンサンブル、室内管弦楽団、合唱団
の定期演奏会、外国人客員教授および著名音楽家による
公開講座や演奏会に加え、オペラ「魔笛」公演、第14
回の海外演奏旅行として、オーケストラがドイツに赴
き大成功を収めました。数々の名演を繰り広げたス
テージを振り返ってみました。

平成25年度の演奏会シーズンも、この4月からいよ
いよスタート。上質な音楽空間を続々とお届けしま
す。当面の演奏会スケジュールはP.14をご覧ください。
ご来聴をお待ちします。



- | | | |
|---|---|---|
| ① | ② | ③ |
| | | ④ |
| | | ⑤ |
| | | ⑥ |
| ⑦ | ⑧ | ⑨ |
| | ⑩ | ⑪ |
- ① 室内楽のタペ(K. ベルケシュ、深山尚久、ドル
恵理子 6/21 ベートーヴェンホール)
 - ② J.L. ブラッツ ピアノ・リサイタル(7/22 ベートー
ヴェンホール)
 - ③ 大学オペラ公演「魔笛」
(4/29・30・5/2・3 ベートーヴェンホール)
 - ④ E. オプラスツォワ メゾソプラノ・リサイタル
(6/8 ベートーヴェンホール)
 - ⑤ H. ビルグラム
オルガン・リサイタル(5/21 ベートーヴェン
ホール)
 - ⑥ 室内楽のタペ(I. ゴリツキー、青山
聖樹、岡崎耕治、岡崎悦子、Z. ティバイ 11/1
ベートーヴェンホール)
 - ⑦ 管弦楽団合唱団演奏
会(11/30 東京オペラシティコンサートホール)
 - ⑧ A. バウニ、A. ライマン 公開マスタークラス(11/2 モーツァルトホー
ル)
 - ⑨ I. イーティン ピアノ・リサイタル(11/29 ベートーヴェンホール)
 - ⑩ P-L. グラーフ フルーツ学内公開レッスン(5/23 江古田キャンパス 447
室)
 - ⑪ 室内管弦楽団演奏会(6/29 ベートーヴェンホール)
- ※すべて平成24年に開催されたものです。



着任外国人教授紹介 (平成25年度前期)



ケマル・ゲキチ *Kemal Gekić* (ピアノ/クロアチア)

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。'81年国際リスト・ピアノコンクールで受賞。'85年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的にを行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。



ロバート・ダヴィドヴィッチ *Robert Davidovici* (ヴァイオリン/アメリカ)

ルーマニア生まれ。ジュリアード音楽院にてガラミアンに師事。カーネギーホール国際アメリカ音楽コンクール第1位受賞。以後幅広いレパートリーで世界的に演奏活動を行っている。大阪フィルハーモニー交響楽団、バンクーバー交響楽団等のコンサートマスターも務めた。フロリダ国際大学教授。



エレナ・オブラストソワ *Elena Obraztsova* (声楽/ロシア)

レニングラード音楽院に学ぶ。チャイコフスキー国際コンクール優勝ほか受賞多数。世界各地の歌劇場で絶賛を浴び、オペラ歌手として不動の地位を獲得。現在も国際的に活躍中。ロシア共和国国家芸術家の称号及びレーニン勲章を授与される。現在、オブラストソワ国際声楽コンクール総裁、ムソルグスキー記念サンクトペテルブルク国立ミハイロフスキー歌劇場顧問。



レイ・E. クレーマー

Ray E. Cramer (ウィンドアンサンブル指揮/アメリカ)

アメリカで最も優れた音楽学部として評価されているインディアナ大学で、2005年まで吹奏楽学科主任教授並びにバンドディレクターとして活躍し、また'09年まで世界的に権威のあるミッドウェスト・クリニック会長の要職も務めた。これまでも全米吹奏楽指導者協会会長をはじめ数多くの吹奏楽協会の要職を歴任する他、インディアナ大学最優秀教授賞、Phi Beta Mu 国際優秀賞等多くの賞を受賞。'12年には権威ある National Band Association Hall of Fame of Distinguished Conductors (吹奏楽の優れた指揮者の栄誉殿堂) に選ばれ、全米、日本等で客員指揮者、指導者、審査員として活躍している。

平成25年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパスのお知らせ

本学では、武蔵野の教育理念・内容を理解していただくために、音楽大学、附属高等学校音楽科に進学を希望している高校生、中学生、小学生とその指導者、保護者の方々に

対象に武蔵野音楽大学、同附属高等学校の学校説明会・オープンキャンパスを各地で開催しています。平成25年度は下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

日程	会場
5月19日(日)	神奈川県横浜市「横浜市栄区民文化センター リリス」
6月2日(日)	香川県高松市「アルファあなぶきホール」
6月2日(日)	千葉県千葉市「千葉市生涯学習センター」
6月9日(日)	オープンキャンパス 江古田キャンパス ※大学のみ説明会となります
6月16日(日)	愛知県名古屋市「ヤマハミュージック東海名古屋店」
6月16日(日)	岡山県岡山市「岡山シンフォニーホール」
6月23日(日)	オープンキャンパス 入間キャンパス
6月30日(日)	群馬県前橋市「前橋市民文化会館」
6月30日(日)	福岡県福岡市「アクロス福岡」
8月23日(金)	オープンキャンパス 江古田キャンパス
11月17日(日)	オープンキャンパス 入間キャンパス

【説明会の内容】 ●10:00～16:00(予定) ●ガイダンス(大学・高等学校別に行います)
●ミニ・コンサート ●受験相談(希望者のみ) ●ワンポイント・レッスン(希望者のみ)
●参加無料(簡単な昼食を用意します)

【お申込み・お問合せ】武蔵野音楽学園広報企画室

〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 TEL.03-3992-1125 FAX.03-3991-7599

※学園ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/>

モバイルサイト <http://musaon.jp/> から申し込みができます。

表紙の顔



井上久美子さん

井上久美子さんは、長年、武蔵野音楽大学で指導にあたり、優秀な学生を数多く育ててきました。日本ハーブコンクールのアドバンス部門では、千田悦子さんと柄本舞衣子さん、プロフェッショナル部門では梅津三知代さん、奥田恭子さん、佐藤理絵子さんが、それぞれ在学中あるいは卒業後に1位に入賞。さらに、千田さんはイスラエル国際ハーブコンテストで3位、奥田さんはモスクワのハーブコンクールで1位に入賞しています。

井上さんは、東京藝術大学音楽学部を卒業。同大学院在学中にオランダ政府の奨学金を受けて、フィア・ベルクハルト女史のもとに留学し研鑽を積みました。ザルツブルクのモーツァルテウム管弦楽団と協演。また、シュトゥットガルト・フィルハーモニーのソリストとしてヨーロッパ各地を演奏旅行。1968年、アムステルダム・コンセルトヘボウでデビュー。1970年、イスラエルの国際ハーブコンテストで4位入賞を果たしました。その後、アメリカ・ハーブ協会の総会にソリストとして招かれて武満徹の作品などを紹介。オランダ、ウィーン、アメリカで開かれた世界ハーブ会議の総会、ポーランドの「ショパン記念音楽アカデミー」、ブラジルの「リオ・ハーブフェスティバル」等に招かれて演奏しました。国内でもソロリサイタル、ハーブトリオ、著名なオーケストラとの協演など活発に演奏活動を行っています。

その他、イスラエル、ロシア、イタリア、フランス、アメリカ、スペインの各国際コンクールに審査員として招聘され、さらに、軽井沢、福井、イタリア、韓国、ポーランド、香港でマスタークラスの講師を務めるなど、幅広く活動しています。

現在、世界ハーブ会議(World Harp Congress)副会長。武蔵野音楽大学特任教授。

【今後の音楽活動】

- 6月30日
銀座十字屋ホール「ハーブ公開セミナー」
- 8月1日～5日
第50回軽井沢ミュージックサマースクールで指導と演奏
- 8月21日～24日
福井ハーブセミナー/コンサートで指導と演奏
- 9月21日(東京)、29日(大阪)
松平朗氏の新作「合唱とハーブのための詩篇第150篇による『主をたたえよ』」を初演

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、江古田新キャンパス建設基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここに芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。 学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成24年11月1日から平成25年1月31日までに寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

【同窓生】

伊佐山明郎様 大鳥明子様 尾形陽子様 小倉道子様 島津 操様 徳田ゆき様 藤居洵子様 本間洋子様 宮城崇美子様 李 宜蓉様 平成10年度入学生同期会一同様 同窓会長野県支部様

【在学生・同ご父母】

飯塚英雄様 佐藤直美様 高山勝行様 龍田久江様 松岡晃子様

【役員・教職員・一般・他】

今泉裕之様 岩津勢伊子様 岩永圭子様 宇野周子様 岡崎雅明様 小野寿美子様 小野茉莉子様 粕谷康子様 金井和美様 金子和広様 加納マリ様 亀井陽二様 川辺 真様 菅野孝次様 クレメンズ・ドル様 小柳信道様 小柳玲子様 佐伯隆夫様 鈴木郁夫様 須田 寔様 砂田孝香様 高久 進様 竹内千賀様 ドル恵理子様 長尾立矢様 納谷 治様 奈良孝春様 端地公美子様 早川敦子様 深野千佳子様 藤沼昭彦様 丸山忠璋様 丸山徹薫様 宮寺明彦様 望月一史様 森田美智子様 八木原宗夫様 山田彰一様 吉池道子様 N.A.O.S様 (他に匿名を希望される方13名)

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

(順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

- 瑞宝双光章受章 藤澤 教彰(昭和49年大学卒声楽専攻)
- 平成24年度北海道文化賞受賞 藤田 道子(昭和29年大学卒声楽専攻)
- 埼玉県「第1回下総院一音楽賞」受賞 北原 幸男(本学教授)
- 第32回 藤堂音楽賞受賞 川口 容子(昭和42年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了)
- 第18回 イスラエル国際ハーブコンクール(イスラエル)
セミファイナリスト特別賞受賞 柄本 舞衣子(平成19年大学卒ハーブ専攻 本大学院修士課程修了 本高校卒)
- 第20回 ヴィットリア・カッファ・リゲッティ国際音楽コンクール(イタリア) ピアノ部門 第1位入賞
長田 千佳(平成16年大学卒ピアノ専攻)
- 第7回 “ピアノコンクール” “Bienal de Piano Music Clasica Formal” (メキシコ)
プロフェッショナル部門 第1位入賞 奥村 尚美(昭和53年大学卒ピアノ専攻)
- 第11回 ドン・ヴィンチェンツォ・ヴィッティ国際音楽コンクール(イタリア) ピアノ部門 第3位入賞
手嶋 沙織(平成20年大学卒ピアノ専攻)
- 第7回 ムージ・ミーラ国際コンクール(ロシア) ピアノ部門 第3位入賞 手嶋 沙織(平成20年大学卒ピアノ専攻)
- 新国立劇場オペラ研修所第16期生(平成25年4月入所) 合格
松中 哲平(平成18年大学卒声楽専攻 本大学院修士課程修了)
飯塚 茉莉子(平成22年大学卒声楽専攻 本大学院修士課程修了)
- 第20回 やちよ音楽コンクール ピアノ部門 第2位入賞 野上 剛(平成24年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程1年次在学)、●第22回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会 オーボエ部門 大学男子の部 第2位入賞(1位なし) 木原 亨(大学1年次在学オーボエ専攻)、ファゴット部門 大学男子の部 第2位入賞 後藤 亜蘭(大学3年次在学ファゴット専攻 本高校卒)、打楽器部門 大学女子の部 第3位入賞 松澤 美希(大学2年次在学マリンバ専攻 本高校卒)、トロンボーン部門 大学女子の部 第4位入賞(1～3位なし) 若田 典子(大学1年次在学トロンボーン専攻)、サクソフーン部門 大学男子の部 第4位入賞 大坪 俊樹(大学4年次在学サクソフーン専攻)、第5位入賞 若山 皓平(大学2年次在学サクソフーン専攻)、ピアノ部門 大学男子の部 第5位入賞 鈴木 雅丈(大学2年次在学ピアノ専攻)、一般女子の部 第5位入賞 山口 茜(平成23年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程2年次在学 本高校卒)、クラリネット部門 高校男子の部 第1位グランプリ入賞 浦畑 尚吾(本高校3年生クラリネット専攻)、●第14回 ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 一般部門 銅賞受賞 若杉 友恵(平成18年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了)、●第28回 レ・スプレンドル音楽コンクール 声楽部門 第3位入賞(1、2位なし) 谷口 万穂子(平成24年大学卒声楽専攻)、●第20回 ペトロフピアノコンクール 一般部門 第3位入賞(1、2位なし) 清水 朋美(平成23年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程2年次在学)、●第17回 コンセール・マロニエ21 声楽部門 第3位入賞 飯塚 茉莉子(平成22年大学卒声楽専攻 本大学院修士課程修了)、●山手の丘音楽コンクール2012 声楽ソロ部門 大学生・一般の部 第3位入賞 小杉 瑛(平成16年大学卒声楽専攻 本大学院修士課程修了)、●第4回 東京ピアノコンクール 連弾部門 第3位入賞 鈴木 布美子(平成4年大学卒ピアノ専攻) / 倉持 純子(平成6年大学卒ピアノ専攻 本高校卒)、ピアノ教育者賞受賞 福光 公仁子(平成5年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了 本高校卒)、●第3回 ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 大学・一般A1部門 ディプロマ賞受賞 南 沙紀(大学4年次在学ピアノ専攻)、●第18回 KOBE 国際音楽コンクール 本選会 打楽器C部門 奨励賞受賞 町田 志野(大学4年次在学マリンバ専攻)、●第13回 ANPル・ブリアンフランス音楽コンクール 大学・一般の部 審査員賞受賞 桑原 由加里(平成17年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了 本高校卒)、●第13回 ブルクハルト国際音楽コンクール ピアノ部門 審査員賞受賞 依田 真理(平成2年大学卒ピアノ専攻)、●第13回 北関東ピアノコンクール ソロ高校生Sの部 第2位入賞 小林 実桜(本高校3年生ピアノ専攻)

平成 25 年度 4 月～7 月 演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会 ～平成 24 年度卒業生による～

4 月 17 日(水) 18:30 津田ホール

¥1,500 (全席自由)

武蔵野音楽大学大学院修士課程在学学生によるコンサート

4 月 22 日(日) 18:30 モーツァルトホール (江古田) 入場無料 (全席自由・要入場整理券)

武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会 ～平成 24 年度修士による～

5 月 13 日(日) 18:30 ヤマハホール

¥1,500 (全席自由)

クルト・グントナー (Vn.) & 藤原由紀乃 (Pf.) デュオ・リサイタル

5 月 21 日(火) 18:30 ベートーヴェンホール (江古田)

¥1,000 (全席自由)

曲目=フランク: ヴァイオリン・ソナタ イ長調、R. シュトラウス: ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 Op.18 他

レインボウ 21 サントリーホールデビューコンサート 2013 (主催: サントリーホール)

6 月 3 日(日) 19:00 サントリーホール ブルーローズ (小ホール) ¥2,000 (全席自由)

武蔵野音楽大学プロデュース「知られざるヴェルディ&ワーグナー - オペラの巨匠たちの器楽曲と歌曲 -」

エレナ・オブラストワ メゾ・ソプラノ・リサイタル 6 月 7 日(金) 18:30 ベートーヴェンホール (江古田)

¥1,000 (全席自由)

ピアノ=三ツ石潤司 曲目=ブラームス: 子守歌、リスト: おお、夢に來ませ、プーランク: セー 他

ロバート・ダヴィドヴィッチ (Vn.) 室内楽の夕べ 6 月 11 日(火) 18:30 ベートーヴェンホール (江古田)

¥1,000 (全席自由)

共演=岡崎悦子 (Pf.)、増田加寿子 (Vn.)、シャンドール・ナジ (Va.)、前田善彦 (Vc.)

曲目=ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲 第 14 番 嬰ハ短調 Op.131、ルトスワフスキ: パルティータ

ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第 9 番 イ長調「クロイツェル」Op.47 他

ニュー・ストリーム・コンサート 19 ～ヴィルトゥオソ・学科演奏会 1～

6 月 13 日(水) 18:30 ベートーヴェンホール (江古田) 入場無料 (全席自由・要入場整理券)

武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会

6 月 28 日(金) 18:30 ベートーヴェンホール (江古田)

¥1,000 (全席自由)

指揮=クルト・グントナー 曲目=エルガー: 序奏とアレグロ Op.47、ベートーヴェン: 交響曲 第 8 番 ヘ長調 Op.93 他

ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル

7 月 3 日(水) 18:30 ベートーヴェンホール (江古田)

¥1,000 (全席自由)

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

7 月 11 日(水) 18:30 浦添市てだこホール (浦添市) 一般 ¥1,500/小・中・高 ¥1,000 (全席自由)

指揮=レイ・E. クレマー

7 月 13 日(金) 16:00 沖縄市民会館 (沖縄市) 一般 ¥1,500/小・中・高 ¥1,000 (全席自由)

トランペット独奏=クリストファー・マーティン

7 月 16 日(火) 18:30 東京芸術劇場 コンサートホール

¥1,500 (全席指定)

(シカゴ交響楽団 首席奏者)

お問合せ ● 武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120

※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます。

平成 25 年度夏期講習会のお知らせ

平成 25 年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会(音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習)を、下記のとおり実施します。

講座名	会場
大学受験講習会 ①7/28～7/31 ②8/2～8/5	江古田 キャンパス
高校音楽科受験講習会 7/28～7/30	
社会人のための夏期研修講座 7/31～8/2	
免許法認定講習 7/25～8/5 ※教員免許状更新講習とは異なります。	

※実施日程、会場が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。◎講習会要項は 6 月上旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室 (TEL.03-3992-1125) またはホームページ、モバイルサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)

ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> モバイルサイト <http://musaon.jp/>

平成 25 年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成 25 年度も教員免許状更新講習を開講します(現在認可申請中)。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域「教育事情」12 時間と選択領域「教科指導」18 時間、合計 30 時間を開講します。

講習期間	会場
①必修領域(12時間) 7/21・22 の 2 日間	江古田 キャンパス
②選択領域(18時間) 7/23～25 の 3 日間	

◎要項は 4 月下旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室 (TEL.03-3992-1125)、またはホームページ、モバイルサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)

編集 後記

あなたは音楽で何を伝えたいのですか? 青柳さんの文章からは、そんな問い掛けが聞こえてくるようです。始まりの季節を迎え、音楽を学ぶことの根本に想いをはせてみてはいかがでしょうか。

東日本大震災から早くも 2 年がたちました。あたりまえのように勉強やレッスンに打ち込めるありがたさに感謝しつつ、夢に向かって日々精進したいものです(編)。

スピネット

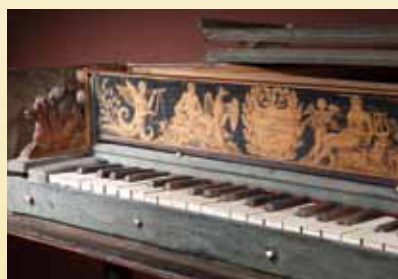
F.ヴォルテリン作 イタリア 奥行き135cm

バロック時代、ヴェルサイユ宮殿における華麗な建築様式に象徴される、豪華絢爛な王宮文化が花開いた西欧では、音楽の分野においても、人間の精神を開放し情念を再現する、劇的で表現力豊かな楽曲が新たに誕生した。このバロック音楽では、作品の水平的統一性を確保するとともに、垂直的に和音を補完する手段として通奏低音の技法が確立され、その担い手として、チェンバロがあらゆるジャンルの音楽に不可欠な役割を演じた。さらにチェンバロには、それを所有する王侯貴族の品位を示す、高級調度品としての意匠も求められた。多くのチェンバロには華やかな絵画や装飾が施され、その形態も様々なものが存在する。その中で、奏者に対して弦が斜めに張られた形のチェンバロを「スピネット」と呼ぶ。

写真の楽器はイタリアのヴォルテリンが制作したスピネットで、以下の様なイタリア様式によるチェンバロの特徴を併せ持っている。イタリアでは、チェンバロ本体が独立した外側のケース（アウター）に納められたものが数多く製作され、しばしばそのアウターには補強と装飾を兼ねてモールディングと呼ばれる縁取りが施された。また、イタリアのチェンバロの装飾には、ルネサンスをテーマにしたものが多い。ルネサンスは、中世の閉鎖的な教会主義からの脱却を目指し、人々の精神的開放を実現させたが、その精神的基盤は



古代ギリシアや古代ローマの人々の価値観であった。したがって、多くのイタリアのチェンバロには、ギリシア神話や古代ローマ美術の絵画や彫刻が施されている。



この楽器の前面に描かれたゼウスやアポロンなどのギリシア神話の一場面、鍵盤両側に施された立体的な彫刻、そして3本の脚の洗練されたデザインなどからは、優美なイタリア式チェンバロとしての品格が窺える。
(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

江古田キャンパス楽器博物館休館のお知らせ

「江古田キャンパス楽器博物館」は、リニューアルオープンに向けて、現在休館中です。なお、「入間キャンパス楽器博物館」及び「パルナソス多摩楽器展示室」は通常通り開館しています。休館中は、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

❖目次❖

- 平成25年度を迎えて 福井直敬 ①
- 音楽の力 青柳いづみこ ②
- 音楽の万華鏡 音楽用語としての「曲」 薦田治子 ⑤
- 卒業生インタビュー ⑥
- バロック・オーボエに魅せられて 三宮正満

MUSASHINO NEWS ⑨

- ❖ 本学合唱団、東京芸術劇場シアターオペラ「カルメン」に出演
- ❖ 「レインボウ21 サントリーホールデビューコンサート 2013」に本学が3年連続採択
- ❖ 新国立劇場オペラ研修所に本学卒業生2名が合格
- ❖ MUSASHINO 掲示板 ❖ 武蔵野オン・ステージ ❖ 着任外国人教授紹介
- ❖ 平成25年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパスのお知らせ
- ❖ 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖ 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
- ❖ 平成25年度4月～7月 演奏会のお知らせ
- ❖ 平成25年度夏期講習会のお知らせ ❖ 平成25年度教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖発行❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1

TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728

TEL.04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1

TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2013年4月1日発行 通巻第105号



モバイルサイト
<http://musaon.jp/>